



## 千種区の年齢3区分別人口の概況

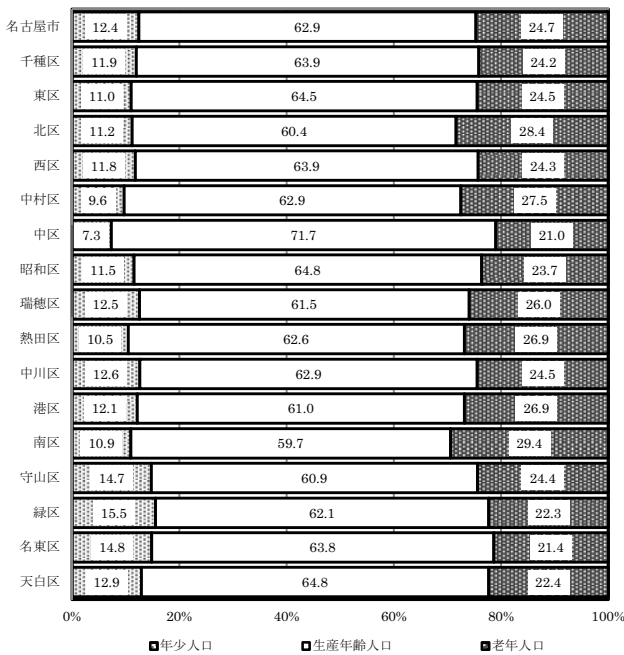


図1：区別年齢3区分別人口比率（平成29年10月1日現在）

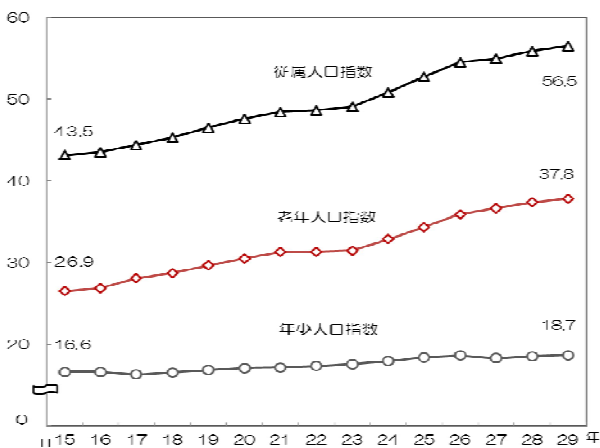
今回は、まず、千種区の年少人口（15歳未満）、生産年齢人口（15～64歳）および老年人口（65歳以上）の比率についてみてみます（図1）。

名古屋市全体および各区の平成29年10月1日現在の年齢3区分別人口比率をみると、年少人口比率は緑区が15.5%と最も高く、千種区は11.9%で16区中8位でした。

生産年齢人口比率は中区が71.7%と最も高く、千種区は63.9%で16区中5位でした。

老年人口比率は南区が29.4%と最も高く、千種区は24.2%で16区中11位でした。

以上から、千種区は名古屋市の中でも働き手である生産年齢人口の比率が比較的高い人口構成であるといえます。



次に、千種区の年齢構成指数の推移をみてみます（図2上）。年少人口指数および老年人口指数は、生産年齢人口100人が年少者または高齢者を何人支えるかを示すものです。また、従属人口指数は、年少人口指数と老年人口指数を合計したものです。

千種区の平成29年の年少人口指数は18.7、老年人口指数は37.8で、上昇傾向が続いているものの名古屋市全体を下回り（それぞれ19.7、39.3）、16区中8位と11位となっています。また、千種区の平成29年の従属人口指数は名古屋市全体（59.0）を下回っているものの、平成23年以降の急激な老年人口指数の上昇に伴い56.5まで上昇しています。これは16区中11位となっています。

また、老年化指数は、年少人口に対する老年人口の比率を示すものです。千種区の平成29年の値は202.6でした（図2下）。これは、老年人口が年少人口のおおよそ2.0倍であることを示しており、名古屋市全体（199.6）よりも高い数値ですが16区中では11位となっています。

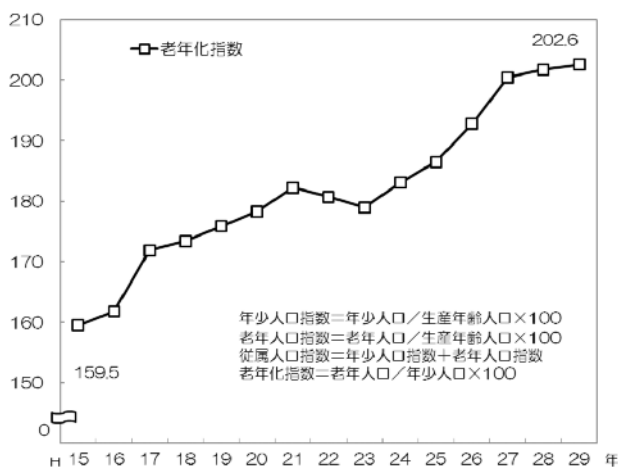


図2（上）：千種区の年齢構成指数の推移

（下）：千種区の老年化指数の推移

（各年10月1日現在）